

## 大山カレッジが表彰

2月18日に開かれた「第9回鳥取県西部地区町村社会教育研究大会」で、大山カレッジが「鳥取県西部地区町村社会教育協議会長表彰」を受賞しました。

同団体は、平成20年度に開校され、中山中学校の空き教室を利用し、毎週木曜日に英語、数学、国語、芸術、体育、音楽などを学習しています。

学習成果は、町文化祭でのステージや作品展示で発表したり、中山中学校文化祭で披露したりしています。このほかにも、中学生へのあいさつ運動や職業講話の講師をつとめるなど幅広く活躍され、生涯学習社会の実現に寄与しております。



▲大山カレッジの皆さん

## まちのたから (37) 文化財室通信

### シリーズ「日本遺産」

#### 第11話

今回は、大山道のうち溝口道と丸山道について紹介します。

#### 大山道「溝口道」

溝口道は、日野川東岸にある溝口宿を経由して大山寺へ向かう参詣道です。出雲街道の主要な宿場であった溝口宿から金屋谷を過ぎた先で横手道と合流します。

#### 金屋谷集落から榎水へ

溝口宿を発し、大山へ向う途中には、大山寺領の金屋谷を通ります。

金屋谷には、旧日野郡内唯一の天台宗寺院で、もと大山寺の末寺である長昌寺があります。万治3（1660）年、相沢呑牛和尚が大山寺座主胤海僧正から境内地を賜って開山したと伝わります。集落内の大山道沿いには、冬場の目印の松が植えられていましたが、大山並木松と同様に、多くが枯死しています。今は「大山」や「大智明権現」と刻まれた道標や常夜塔が往時を偲ばせます。

金屋谷を経て榎水へ行くと、自然石に線彫りした石地蔵（榎水地蔵）があります。この地は古くから知ら

れた水をいただく場所でしたが、元禄9（1696）年に、この水が涸れて二年続きの凶作となったため、人々は石で枅形を造って石地蔵を立て、48日間にわたって供養をしました。これが今も地蔵尊祭として地域に続いています。

#### 大山道「丸山道」

丸山道は、大山寺の冬季の代官所が置かれた丸山から大山寺へ向かう道で、前回ご紹介した「分けの茶屋」の所で尾高道と合流します。

#### 丸山代官所と里坊屋敷

冬の大山といえは、やはり豪雪を思い浮かべるのではないのでしょうか。そのため、大山寺で万治の火災による大災害があった翌年の万治3（1660）年、大山寺領の丸山境内に、冬の間などに役僧が生活する居宅（里坊）の敷地が、各院に一箇所ずつ与えられました。そのうち、大山寺本坊である西楽院の里坊屋敷は、丸山代官所と呼ばれていました。

丸山は大山寺領内随一の松の育成に適した土地柄で、各里坊屋敷に松を植えておけば各寺院が建て替えをするときに建築資材として利用できるところから、と平均1500坪もの広い



▲地蔵滝の泉

土地が与えられたと伝わります。

#### 地蔵滝の泉と地蔵滝地蔵

県道名和岸本線が佐陀川を渡る丸山橋のほぼ真下に、地蔵滝の泉があります。この泉は、平成20年に環境省の「平成の名水百選」に選ばれています。大山へ参詣する人々や牛馬にとつては、咽の渴きを潤し、気力回復する憩いの場として知られた名泉です。

泉の傍らに佇む地蔵は、参詣者や牛馬の道中の安全を願って、大山信仰の厚信者によって建てられました。名の由来である滝は、今はありませんが、この湧水は下流の八郷地区の水源でもあり、今なお人々を潤す、大山の「恵みの水」です。

（人権・社会教育課 文化財室）